

事例番号:310181

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 31 週 4 日 膣分泌物培養検査にて B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) (1+)

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 32 週 4 日

7:00 前期破水のため入院

血液検査にて白血球  $20750/\mu\text{L}$ 、CRP  $1.4\text{mg/dL}$

#### 4) 分娩経過

妊娠 32 週 4 日

7:12- 胎児心拍数陣痛図で、170 拍/分以上の頻脈あり

7:14 脈拍数 120 回/分

7:34 頃- 胎児心拍数陣痛図で、185-195 拍/分の頻脈あり

8:20- 胎児心拍数陣痛図で、頻脈、基線細変動減少、高度遅発一過性徐脈、軽度変動一過性徐脈あり

13:29 前期破水、骨盤位で子宮収縮が収まらないことから、帝王切開により児娩出、骨盤位

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査にてステージ II の絨毛膜炎 (Blanc 分類)、  
ステージ II の臍帯炎 (Blanc 分類)

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:32 週 4 日

(2) 出生時体重:2322g

- (3) 臍帶動脈血ガス分析:実施なし
- (4) Apgarスコア:生後1分6点、生後5分7点
- (5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)
- (6) 診断等:
  - 出生当日 早産児、低出生体重児、新生児一過性多呼吸
  - 細菌培養検査にて GBS 検出
- (7) 頭部画像所見:
  - 生後1ヶ月 頭部MRIで脳室周囲白質軟化症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
  - 医師:産科医2名、小児科医1名、麻酔科医1名
  - 看護スタッフ:助産師2名、看護師3名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、出生前に生じた胎児の脳の虚血(血流量の減少)により脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことであると考える。
- (2) 胎児の脳の虚血(血流量の減少)の原因を解明することは難しいが、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性を否定できない。
- (3) 子宮内感染がPVLの発症に関与した可能性がある。
- (4) 児の未熟性がPVLの発症の背景因子であると考える。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

- (1) 妊娠31週で子宮頸管長11mmを認めた際の対応(子宮収縮抑制薬の処方、2週間後の妊婦健診指示)は選択肢のひとつである。
- (2) 妊娠32週2日、水様性帯下を訴えて受診した際の対応(pHキットと超音波断層法を行い帰宅としたこと)は選択肢のひとつである。

### 2) 分娩経過

- (1) 妊娠32週4日、前期破水のため入院した際の対応(超音波断層法、内診、血

液検査、子宮収縮抑制薬と抗菌薬の投与、分娩監視装置装着)は一般的である。

- (2) 妊娠 32 週 4 日 8 時 20 分以降、胎児心拍数陣痛図上、頻脈、基線細変動減少、高度遅発一過性徐脈を認める状態で分娩監視装置を終了し経過観察したことは一般的ではない。
- (3) 帝王切開決定から 3 時間 55 分後に児を娩出したことは一般的ではない。
- (4) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 胎児心拍数陣痛図の判読と対応について「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」を再度確認し、陣痛開始前であっても胎児心拍数波形分類に準じた対応と処置を習熟し実施することが望まれる。
- (2) GBS 陽性で特に薬剤アレルギーがない場合にはペニシリン系抗菌薬の投与を第一選択とすることが望まれる。

【解説】妊娠 31 週 4 日の膣分泌物培養検査にて GBS 陽性であり、前期破水による入院後にセフェム系抗生物質が投与されたが、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」ではペニシリン系抗菌薬の投与が推奨されている。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】本事例では、児に重篤な結果がもたらされているため、妊娠 32 週 4 日の前期破水に至った経緯、絨毛膜羊膜炎の PVL への関与等について、本報告書をもとに院内で事例検討を行うことが望まれる。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

子宮内感染(絨毛膜羊膜炎)は高サトカイン血症を介して PVL 発症に関与する

と考えられているが、そのメカニズムは実証されておらず不明な点が多い。これらに関する研究を推進することが望まれる。

**(2) 国・地方自治体に対して**

なし。